



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

つくる人。まもる人。
～地域を支える建設業に携わる人たち～

第13回 松本地域景観育成サポーター
等々力 秀和運営委員長



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

「安曇野の景観をまもる」

安曇野の景観をまもります！

松本地域景観育成サポーターは現在7期目で会員は42名、月に1度運営会議を開催し、会員自身が所属する団体の活動の発表や、イベントのお知らせなどを行っています。

松本地域景観育成サポーターは、前身である長野県景観サポーターが平成17年度をもって終了してしまうことに対し、「何とか松本地域での存続を」との声を基に創設したものです。

今回は現在活動している第7期の運営委員長である等々力 秀和氏にスポットを当ててみました。



等々力氏は安曇野市在住で、松本地域景観育成サポーターの運営委員長以外にも、地域の景観や観光に関する活動を行っています。いくつか挙げると・・・

NPO 法人安曇野市ふるさとづくり応援団 代表理事
アルプス花街道 実行委員長
拾ヶ堰応援団 団長
安曇野案内人倶楽部 代表 等々

拾ヶ堰は現在では自転車道路が併走しており、芝桜がきれいに植えられ、北アルプス側を望めば正に「安曇野の風景」ですが、少し前まで（といっても、何十年かは前）は堰の周辺はそれほど整備されていなかったような記憶があります。それが現在では「安曇野を代表する風景」になっており、等々力氏のような「安曇野を安曇野らしく、誇れる風景に整備をしていこう」というボランティア、NPO、行政の方々のおかげで、今の景観が整備されてきたのだと思います。

アルプス花街道も平成9年から整備が始まったとのこと。安曇野（旧豊科）インターは長野冬季オリンピックでの白馬への玄関口であり、その時期にインター～白馬への道路も整備されました。道の整備と共にお客様を迎えるため環境も整備されたのでしょう。インターを降り北へ向かう県道柏矢町田沢停車場線は季節になると沿道を花々が彩り、とても華やかになります。また前出の県道のみならず市内のあらゆる地域が花に彩られ、観光に来られた方にも「安曇野」の風景として心に残ることでしょう。

日々いたる所で活動している等々力氏。一日に幾つもの会議が重なることも珍しくないようです。それでもいつも元気に活動しています。どこからエネルギーが湧いてくるのか、どうしてそんなに頑張ることが出来るのか聞いてみると・・・



「毎日を楽しんで、一生懸命に生きる。次の日の予定は次の日起きてから確認する。少しづつやってきた事が実を結んできている。楽しくて仕方がない」とおっしゃっていました。

方言で言うと「ずく」のある方です。行動することを億劫がらず、自分からどんどん外に向かっていきます。私も等々力氏を見習い「ずく」を惜しまず行動していけたらと思います。